



Press Release

2021 年度安全セミナー 開催のお知らせ

地震や異常気象に対する「防災・減災」をはじめ幅広い観点から、地域社会の安全について考える「安全セミナー」を開催、今回は以下の内容で実施します。

- 防災の専門家 VS 高さ 34m という日本一の津波想定を突き付けられた街 高知県黒潮町幹部 との対談を行います
- 防災活動を通じ、子供たちから大人まで地域の結束力がいかに強まったのか、その道のりを紹介します

これらをとおして、関西におけるこれからの防災のあり方を考えます。

1. 日 時 2021 年 10 月 16 日(土) 14:00~15:40

2. 実施方式 Zoom ウェビナーによるセミナー方式

3. 講 師 片田 敏孝 氏



- ・ 東京大学大学院 情報学環特任教授
- ・ 日本災害情報学会 会長

畦地 和也 氏



- ・ 高知県黒潮町教育長

《演題》

東日本大震災発災 10 年 これからの関西における防災のあり方を考える

東日本大震災の衝撃が冷めやらないなか、34.4m の日本一の巨大津波想定が突き付けられた高知県黒潮町。恐怖と不安の真ただ中と思いきや、今の黒潮町には諦めも悲壮感もありません。それどころか住民は明るく、防災活動を通じて地域の結束は強まりました。子どもたちは「僕たちの故郷は僕たちが守る」と言わんばかりに、地域と一緒に防災に取り組み、大人たちはそんな子どもたちに目を細め、町の将来に明るさすら感じ始めています。黒潮町が大切にしたのは、対策だけではなく思想でした。「自然に向かい合ってこの地に凜と生きる」

この対談では、日本一の津波想定を黒潮町はどのように理解して防災に取り組んだのか。その過程を振り返り、近年激甚化する自然災害への向かい合い方を考えます。

[プロフィール]

<片田敏孝氏>

災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育、避難誘導策のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国各地で展開している。特に防災教育については、地域防災と連携した育みの環境ととらえた活動を展開している。また、地域防災については、地域の災害文化として、災いをやり過ごす知恵や災害に立ち向かう主体的姿勢の地域での定着を図ってきた。これら一連の活動が認められ、平成 24 年には防災の功労者として内閣総理大臣表彰を受賞、さらに同年海洋立国日本の推進への功労者としても、内閣総理大臣表彰を受賞している。また平成 26 年には皇居に招かれ天皇皇后両陛下にご進講もしている。

<畦地和也氏>

高知県幡多郡大方町（現黒潮町）生まれ。1978 年より大方町（現黒潮町）職員。1989 年建物のない「砂浜美術館」の立ち上げにかかわる。2016 年開催された国際会議「『世界津波の日』高校生サミット in 黒潮」の総指揮を執った。2018 年 5 月より黒潮町教育長。

[高知県黒潮町について]

2006 年大方町と佐賀町が合併して誕生。面積 188.59km² 2021 年 5 月末現在の人口は 10,764 人。東日本大震災の翌年の 2012 年 3 月 31 日内閣府中央防災会議から、南海トラフ巨大地震の新想定が発表され、黒潮町の最大震度は 7、最大津波高 34.4m という、日本一厳しい数値を突き付けられた街である。

- 4. 定 員 800 名（参加無料）
- 5. 主 催 等 主催：公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
協力：西日本旅客鉄道株式会社
- 6. 応募方法 J R 西日本あんしん社会財団ホームページ (<https://www.jrw-relief-f.or.jp/>)
より 2021 年 10 月 8 日（金） までにお申し込みください。
※先着順で受付いたします。